

国土交通政策研究所 シンポジウム

— 運輸企業の組織的安全マネジメントへの取組みを企業風土を通じて考える —

安全風土確立に向けた企業の取組み

アイベックスエアラインズ株式会社

代表取締役社長 兼 安全統括管理者

服部 浩行

平成26年6月17日

IBEX



IBEXエアラインズの使用機材は、カナダのBOMBARDIER「CRJ」。
この旅客機を日本で初めて導入したのが、IBEXエアラインズです。
2009年には、これまでのCRJ-100/200に加え、最新鋭機CRJ-700NextGenを本邦初導入。
小型ジェット機による優雅で快適な空の旅を、ぜひ一度お楽しみください。

会社概要

商号	アイベックスエアラインズ 株式会社
事業内容	航空運送事業
設立	1999年 1月29日 (旧 株式会社 フェアリンク)
運航開始	2000年 8月 7日 仙台—関西国際空港 就航
資本金	42億円
従業員数	332名(2014年5月1日 現在)
株主	株式会社日本デジタル研究所(東証1部) 他
保有機材	CRJ700Next Gen 5機(座席数70席) CRJ200/100 4機(座席数50席)

IBEX

会社沿革

- 1999年：株式会社フェアリンク 設立
- 2000年： 1号機 (CRJ100) 受領
- : 航空運送事業認可
- : 仙台－関西国際空港 就航
- : 2号機 (CRJ100) 受領
- 2001年： 仙台－広島西、広島西－鹿児島 就航
- 2002年： 3号機 (CRJ200) 受領
- : 成田－仙台、札幌、伊丹
- : 伊丹－仙台 就航
- 2003年： 伊丹－松山、大分
- : 成田－広島就航
- : 4号機 (CRJ200) 受領
- 2004年： 伊丹－庄内、福島
- : 成田－小松 就航
- : アイベックスエアラインズ(株)に商号変更
- 2006年： 伊丹－秋田 就航
- 2009年： 5号機 (CRJ700) 受領
- : 仙台－小松、広島、福岡 就航
- 2010年： 6号機 (CRJ700) 受領
- : 伊丹－福岡、大分
- : 仙台－札幌 就航
- 2011年： 7号機 (CRJ700) 受領
- : 中部－仙台、大分 就航
- 2012年： 8号機 (CRJ700) 受領
- : 福岡－中部、宮崎
- : 伊丹－宮崎 就航
- 2013年： 9号機 (CRJ700) 受領
- : 予備機運用開始
- 2014年： 伊丹－札幌・新潟、福岡－小松 就航
- : 伊丹－大分、仙台－札幌 再開
- : 10号機 (CRJ700) 受領予定

機材紹介

BOMBARDIER社製
CRJ700Next Gen
座席数 70席

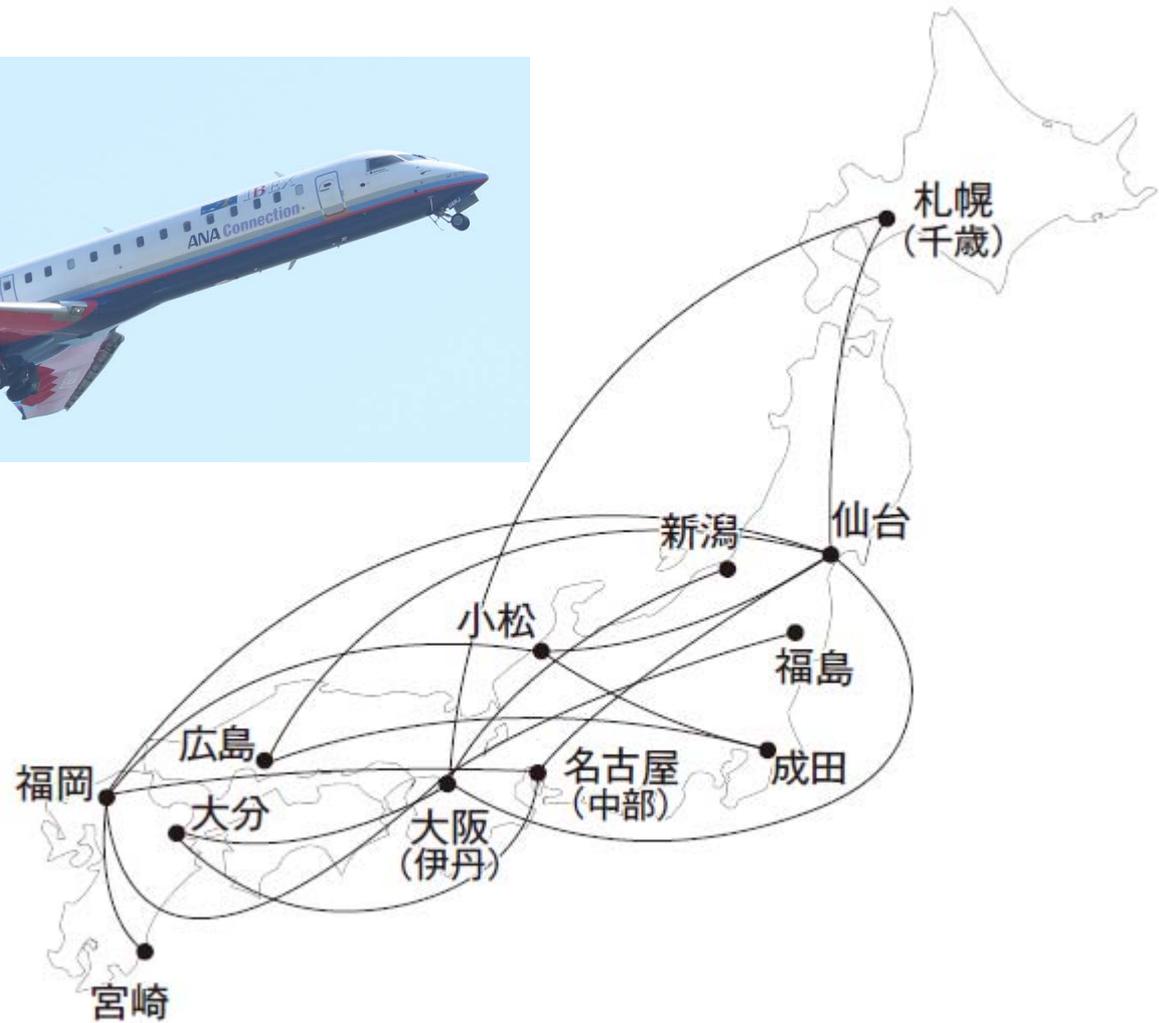


BOMBARDIER社製
CRJ100LR/200ER
座席数 50席



BOMBARDIER

就航路線：国内12都市、17路線・54便 (2014年7月現在)



IBEX



当社の事業目的と戦略

①事業目的



地方経済の活性化に貢献する。

既存航空各社の路線再編/撤退により「非活性化」の方向へ進む危険性のある地方都市経済ですが、中・大型機では採算の取りにくい地方路線に小型ジェット機を運航することによって、従来の経済活動の維持はもとより、潜在需要を掘り起こし「活性化」の方向に向かわしめます。



航空業界全体の健全な発展に貢献する。

需要に見合った機材による路線の棲み分けを進め、航空業界全体が健全に発展するための一助となります。

IBEX

安全への取組み

「あらゆる安全は人によって確保される」を創業からの理念に、経営者から社員ひとりひとりにいたるまでIBEXは安全に邁進しています。

安全宣言

- 1 IBEXは、安全を最優先します。
- 2 IBEXは、安全を企業の社会的責任とみなし、社員の義務と定めます。
- 3 IBEXは、安全を確保するために近道は選びません。



代表取締役社長

服部 浩行

国政研「安全に関する社員アンケート調査」概要

【アンケート実施】

第1回 2011年実施 実施期間 : 2011年12月01日～12月21日

第2回 2013年実施 実施期間 : 2013年9月01日～9月21日

【集計・分析の方法】

(1) 回答を点数化

アンケートの回答を「非常によくあてはまる」から「全くあてはまらない」を5段階に分けて、
《+2、+1、0、-1、-2》に点数化した。

(2) 5つの領域に分けて集計

アンケートの設問を以下の5つの領域に分けて集計した。

- I. トップの価値観、行動
- II. マネジメントサイクルの充実と浸透
- III. 教育訓練の充実
- IV. 現場管理の充実
- V. 職場メンバーの積極心

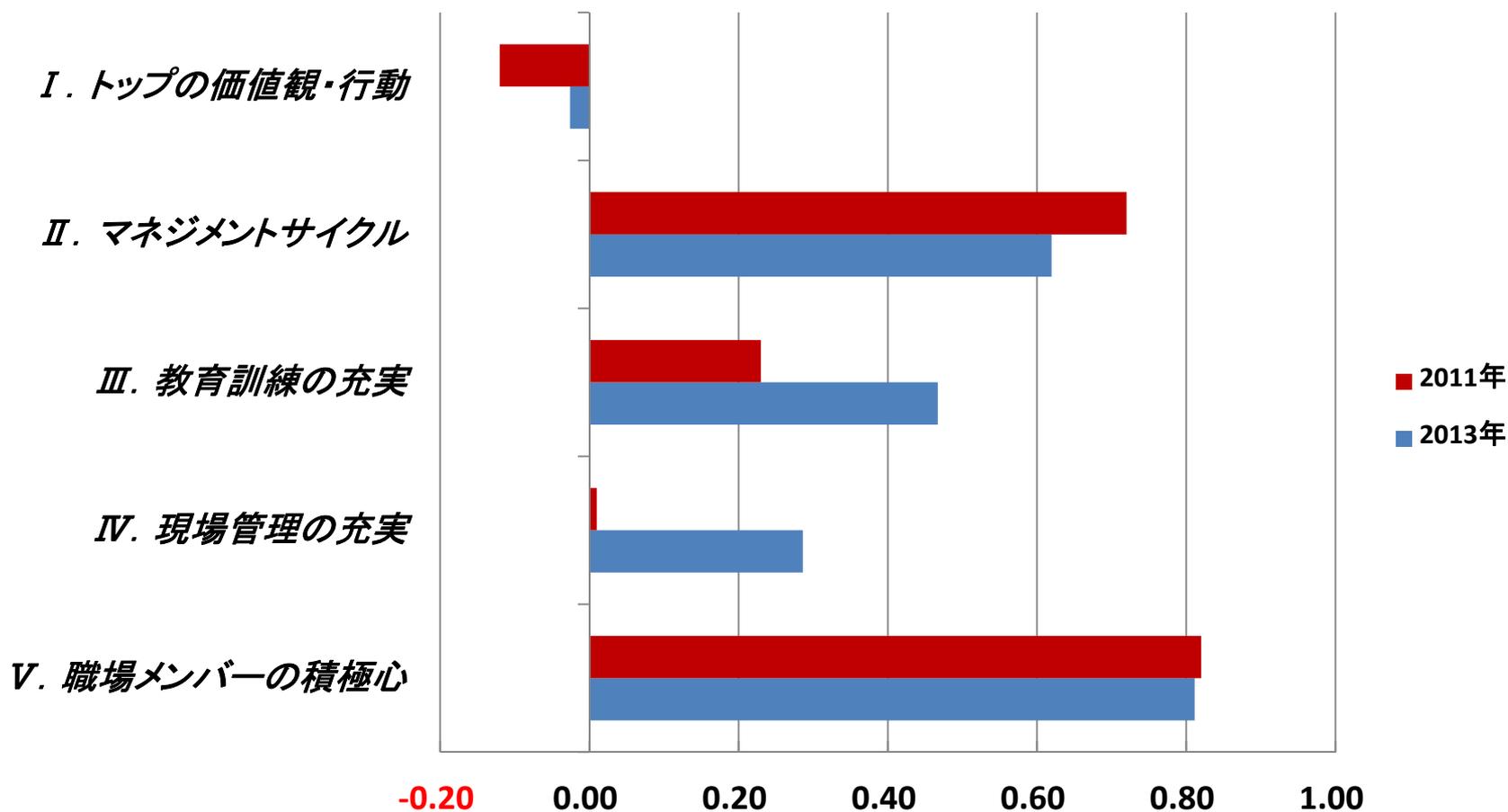
(3) 領域別に点数を評価

各領域ごとの点数を集計した。点数の評価は以下の通り。

- ・1.0以上 : 「高い」
- ・0.75～1.0未満 : 「やや高い」
- ・0.5～0.75未満 : 「やや低い」
- ・0.5未満 : 「低い」

国政研「安全に関する社員アンケート調査」概要 (続)

領域別集計結果：2011年と2013年の比較



国政研「安全に関する社員アンケート調査」概要^(続)

【アンケート集計結果から見るIBEXの特徴、傾向】

(1) 評価の高い領域:

領域Ⅱ「マネジメントサイクルの充実と浸透」

領域Ⅴ「職場メンバーの積極心」

(1-1) 領域Ⅱの中で、特に評価の高い区分:

- ・「PDCAの実践」の中の「改善志向」、
- ・「コミュニケーションの実践」の中の「報告・連絡・相談の実践」

⇒『組織をあげて協力し合いながら安全管理を実施できる傾向がある』

(1-2) 領域Ⅴの中で、特に評価の高い区分:

- ・「基本行動への意識」の中の「約束」
- ・「職務への意識」の中の「仕事」
- ・「人間関係への意識」の中の「先輩」、「部下」

⇒『経営意思が浸透しやすく、集団意思がまとまってチームとしての行動ができる傾向がある』

(2) 評価の低い領域

「Ⅰ. トップの価値観、行動」

- ・「経営理念(トップの価値観)」の中の「経営姿勢への共感」
- ・「マネジメントシステム」の中の「管理者育成(人材育成)」
- ・「現場重視の行動・姿勢」の中の「経営者による現場コミュニケーション」

⇒『安全のことは管理者や現場に任せる傾向がある』

…………と見ている社員が多い、ということの意味している。

国政研「安全に関する社員アンケート調査」概要^(続)

【第1回と第2回の比較から】

- ・前回より高くなった領域：
領域Ⅲ「教育訓練の充実」
領域Ⅳ「現場管理の充実」
⇒多くの社員が2年前よりも改善していると感じている事が伺える。
- ・前回同様に低かった領域：
領域Ⅰ「トップの価値観、行動」
⇒それでも前回よりはわずかばかり上昇した。
- ・前回より大きく低下した領域はなかった。

国政研「安全に関する社員アンケート調査」概要^(続)

第1回(2011年)以降の取組み:

(1) 社員教育

- ・コンプライアンス教育(2011年度)
- ・安全管理システム(SMS)教育(2012年度から)

(2) 組織の充実、人員の強化

- ・運航部:「安全品質管理課」新設
- ・整備部:「整備訓練課」、「生産管理課」新設、等

(3) 中期事業計画の社内共有

- ・2012年—2014年 中期計画 :2012年4月 全社員へ説明

(4) 制服更新:初の取組み

- ・2013年4月:パイロット/キャビンアテンダントの代表者で構成される「制服改定委員会」を発足。新制服を検討し、2014年4月導入

国政研「安全に関する社員アンケート調査」概要^(続)

第2回(2013年)以後の取組み:

- 「2014-2016 新中期事業計画」:2014年4月、全社員に丁寧の説明
⇒社員が将来を展望出来るようにする事を心掛け
- 「新任管理職研修」:人財力の向上
⇒プロパーの新任管理職に対して、外部講師の参加を含めた2泊3日の集合研修を実施(初回:7月予定)
- 「相互理解」:運航基地がある仙台空港、整備基地がある伊丹空港へ極力毎週出向き、個々の社員へ声掛け
⇒日常的な触れ合いを通じて相互理解をより深める